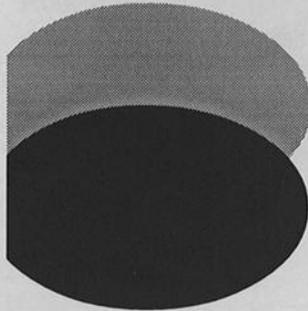


# 1998825

## 絵本学会 NEWS No.4

発行：絵本学会  
発行日：1998年8月25日  
編集：絵本学会事務局・広報委員会  
事務局：〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
武蔵野美術大学視覚伝達デザイン研究室内  
TEL：042-342-6091 FAX：042-342-5173  
<http://vcd.musabi.ac.jp/ehongaku/homepage.html>



### 絵本学会

絵本学会 1998年度 総会報告  
第1回絵本学会大会を終えて  
第1回絵本学会大会報告  
ワークショップ、研究発表、ラウンドテーブル  
絵本フォーラム'98 PART2のお知らせ  
インフォメーション 絵本関係展覧会・イベント  
事務局からのお知らせ  
研究論文集の論文公募  
理事会・運営委員会から  
専門委員会から

### 絵本学会 1998年度 総会報告

#### 【1997年度活動報告ならびに 1998年度活動計画】

1997年5月11日に武蔵野美術大学で絵本学会が設立されて早くも1年が経過しました。この1年を振り返ると、まず「絵本学会NEWS」の発行があります。1997年7月28日にNo.1、12月22日にNo.2、そして本年4月28日にNo.3がそれぞれ発行されました。そして、そこに絵本学会のこれまでの活動が、理事会、運営委員会、企画委員会、研究委員会、出版編集委員会の各専門委員会の活動記録と共に報告されていますので、それらをここで重ねて報告することは省かせて頂きます。

本年1月15日に東京の世田谷文学館で、同文学館との共催で「絵本フォーラム'98」を開催しました。生憎なことに当日大雪に見舞われ、開催が危ぶまれましたが、100名近くの熱心な方が集まられて、予定通りフォーラムは実施でき、その詳細も「絵本学会NEWS」No.3に香菅我部秀幸企画委員長より報告がなされています。

またこれまで努力を重ねてきたことに、機関誌の発行の問題がありました。これについても澤田精一出版編集委員長より「絵本学会NEWS」No.3に経過報告がなされています。会としては既存の出版社から広く一般市場で販売できる形のものとして発行したいと努力しましたが、これも現下の経済不況下で実現の困難なことが明らかとなりました。にもかかわらずその線の可能性は粘り強く探っていく一方、当面の打開策として会の財政の範囲内で会員の研究発表の場となる機関誌すなわち「紀要」を1998年度は発行することにしました。すでにその研究論文の公募、投稿と執筆の要領は、これも「絵本学会NEWS」No.3でお知らせしている通りです。投稿論文が多数であることを期待すると共に、「紀要」の制作費については正直に申して頭を痛めているところです。幸いなことに、設立初年度にはいどきに多数の新入会員を迎えて入会金収入が会費の他にありましたので、とりあえずはその資金を「紀要」発行の準備金としてプールしておけるとは思いますが、「紀要」発行は難題の一つです。どの団体も同じ悩みをかかえています。この経済不況下では

特に会の財政運営は会費収入のみに頼らざるをえません。その意味でも会員数のさらなる拡大が必要で、会の活動にはどうしても財政的支えが必要です。改めて会員の拡大に会員お一人お一人が努力して下さることが会の活動の活性化の前提であると訴えたいと思います。

1998年度の活動計画については、すでに一部は言及しましたが、「幅広い視点から絵本学の構築を！さまざまな分野で絵本に関わる人々が自由に討論・研究・勉強を楽しむフォーラムを！」という太田大八氏の呼びかけで始まった絵本学会の基本精神の具体化であるフォーラムは、本年内に再度東京で、その後、東京以外の地で開催を予定しております。どうか、全国に渡っておられる会員の方々はお近くの会員と積極的に（会員名簿を有効にお使いになって）お話し合いをなさり、地域地域で絵本学会の活動をお始めください。事務局を要とする本部はその橋渡し役をさせていただけるのを待っています。出来上がったこの絵本学会で会員各位が何ができるかを改めて考えていただくのが、1998年度の活動計画を考える基本であると認識しております。

(絵本学会会長 吉田新一)



絵本学会総会 会場風景

## 【絵本学会 1998年度 総会】

絵本学会 1998年度総会は、1998年6月6日、7日の両日日本女子大学（東京都文京区）で開催されました。1997年度活動報告ならびに1998年度活動計画が吉田新一会長より報告された後、以下の総会次第にしたがって審議が行われました。

総会の出席者数：96名、委任状提出者数：120名

### 絵本学会第1回定期総会次第

1. 開会の辞
2. 1997年度活動報告ならびに1998年度活動計画に向けて  
絵本学会会長

### 3. 1997年度活動報告

#### ●理事会・運営委員会

- 6月7日 理事会および運営委員会
- 7月5日 運営委員会
- 9月13日 運営委員会
- 10月25日 運営委員会
- 11月29日 運営委員会
- 2月11日 運営委員会
- 3月14日 運営委員会

#### ●広報

広報紙『絵本学会ニュース』の発行 7月、12月  
『会員名簿』の発行 12月

#### ●企画

「絵本フォーラム'98」の開催 1月

#### ●出版

機関誌発行の準備 継続検討課題

### 4. 1997年度会計・会計監査報告

事務局（今井）より1997年度決算報告について説明。  
監事（笹本）より監査結果について報告。  
原案どうり承認された。  
資料：別紙添付

### 5. 1998年度活動計画

#### ●広報

広報紙『絵本学会ニュース』の発行 4月、7月、12月  
『会員名簿』の発行

#### ●企画

特別講座の開催 7月28・29日（於：武蔵野美術大学）  
スロバキアの絵本作家ドゥシャン・カーライ氏を招いてのワークショップと講演  
「絵本フォーラム'98」の開催

#### ●出版

論文集の発行  
機関誌発行の準備 継続検討課題

#### ●分科会活動

地域活動、分科会活動の推進

### 6. 1998年度予算案

事務局（今井）より1998年度予算について説明。  
原案どうり承認された。  
資料：別紙添付

### 7. 役員選出規則について

昨年、設立総会で提示された暫定規則案について説明があり、今

後会員からの意見などを聞いたうえで、来年度総会で正式規則として定めた旨報告がありました。

### 8. その他質疑応答

① 5. 1998年度活動計画に関する案について

絵本学会ホームページに関する要望（更新頻度など）

② 7. 役員選出規則について

監事選出に関する規則について、会則と暫定規則の記述のくい違いの指摘 → 修正

### 9. 閉会の辞



大会会場入口

（於：日本女子大学）

## 第1回 絵本学会大会を終えて 吉田新一

去る6月6、7日の両日、日本女子大学で開催された絵本学会最初の研究大会を無事終了できて、学会の統括者として、また、会場校の代表者として、今ほっとしているというのが偽らない気持ちです。前例となるモデルがないので、関心・関りの多岐にわたる会員を擁する絵本学会の大会内容をどう構成するかに頭を痛めました。結果はご覧の形になりましたが、参加の方々にご満足いただけたか不安で、ぜひ忌憚のないご意見をたまわり今後の大会に役立てたいと思っています。受付の集計では参加者数が、会員103名、非会員86名、招待者45名、計234名。2日間の延べ数は約500名でした。（懇親会には約80名が出席されました。）1日目の3つのワークショップの参加は340名（日本女子大附属豊明幼稚園親子を含む）、2日目午前の研究発表2室へは約100名、午後の5つのラウンドテーブルには計204名の参加者がありました。各プログラムへ講師、司会、スピーカーとして、また、記録、タイムキーピング、受け、接待など諸業務に積極的にご協力頂いた方々には、心から感謝を申し上げます。また、準備のため何度もお集まり頂いた学会運営委員のみなさまにも改めてお礼を申し上げます。そして、日本女子大学で私の前任者故安藤美紀夫教授時代からの研究会α（アルファ）の石井光恵氏、岩崎真理子氏をはじめとするメンバー、並びに私の教室の学生たちの準備段階から終了後までのボランティア協力がなければ当番校の責務は果たせませんでした。この方たちへも感謝のこぼれを記させて頂きたいと思います。最後になりましたが、大会に参加して下さったみなさま。みなさまの絵本によせる熱意が大会のすべてのプログラムを最大限盛り上げて下さいました。そのことがささやかな努力で大会運営にあたった一同の最大の喜びでした。ありがとうございました。

## 1997年度 決算書

[収入]	項目	決算額
	会費収入	3,298,000 円
	法人等会費	260,000
	個人会費	3,038,000
	利息収入	1,740
	貯金利息	1,740
	参加費収入	28,000
	フォーラム参加費	28,000
	雑収入	109,664
	合計	3,437,404

[支出]	項目	決算額
	運営費支出	241,508 円
	総会費	224,708
	会議費	16,800
	活動費支出	79,010
	専門委員会活動費	79,010
	交通費	242,115
	謝金	20,000
	印刷費支出	439,660
	絵本学会ニュース	214,200
	絵本学会封筒	217,060
	入会申込はがき	8,400
	消耗品費支出	53,268
	通信費支出	312,250
	絵本学会ニュース発送費	150,590
	事務連絡費	161,660
	報酬支出	325,000
	事務局報酬	325,000
	雑費	3,622
	次年度繰越金	1,720,971
	合計	3,437,404

## 総会関係別途会計

[収入]	項目	決算額
	総会援助金(武蔵野美術大学より)	200,000円
	懇親会参加費	132,000
	合計	332,000

[支出]	項目	決算額
	懇親会料理	184,086円
	総会スタッフ食事・会議費	60,250
	雑収入に組み入れ	87,664
	合計	332,000

## 1998年度 予算書

[収入]	項目	予算額
	会費収入	2,888,000 円
	法人等会費	280,000
	個人会費	2,628,000
	利息収入	40,000
	貯金利息	40,000
	参加費収入	500,000
	大会参加費	200,000
	フォーラム参加費	300,000
	前年度繰越金	1,720,971
	合計	5,148,971

[支出]	項目	予算額
	運営費支出	350,000 円
	総会・大会費	200,000
	大会運営補助費	150,000
	活動費支出	500,000
	専門委員会活動費	500,000
	交通費	350,000
	謝金支出	250,000
	講師謝礼等	150,000
	研究論文集編集・制作費	100,000
	印刷費支出	730,000
	絵本学会ニュース	240,000
	研究論文集	250,000
	その他	240,000
	消耗品費支出	100,000
	通信費支出	520,000
	絵本学会ニュース発送費	260,000
	研究論文集発送費	120,000
	事務連絡費	140,000
	報酬支出	350,000
	事務局報酬	350,000
	雑費	50,000
	予備費	100,000
	機関誌刊行積立金	1,000,000
	次年度繰越金	848,971
	合計	5,148,971

## 第1回 絵本学会大会報告

【ワークショップ】 6月6日(土)13:30～16:30

### ●ワークショップ1：駒形克己ワールド

「くるりと変化」 いち にい の さーん

講師：駒形克己（グラフィックデザイナー）

開始時間 1:30。会場となった豊明幼稚園のホールには、すでに200人近い人達でいっぱいです。子どもたちも元気そう。5才と6才のクラスの親子が73組。お父さんの顔もちらほら見えます。私たちの説明が始まると、子どもたちは身を乗り出し今にも弾けそう。今回のワークショップは親子が一緒に参加。オモテとウラの変化をテーマに、それぞれが片面ずつを作成します。見本を紹介しながらのおよそ20分程の説明。オモテからウラへ返す時にはみんなで声をかけます。「いち にい の さーん」…。

説明後はまず親子で打ち合わせ。それぞれ何を作るのか会場はワイワイガヤガヤ。あちらこちらで真剣に向き合う親子の姿がありました。構想が決まるといよいよ制作です。それぞれベースになる色の台紙を手にし、子どもたちは1階の3教室に、大人たちは2階の3教室へと分かれます。お互いにあまり干渉しないようにとの配慮からです。子どもたちは色紙をはさみで切り、手で貼り、自分のイメージに少しずつ近づいていきます。お母さんお父さんも、子ども用の椅子に窮屈そうに腰かけながらも、顔は真剣そのもの。

およそ1時間、制作に集中していた親子が作品を仕上げホールへと戻ってきます。さあ発表です。人数が多いため希望者を募りこちらからの指揮で進めます。「発表をしたい人！」と問いかけると、ほとんどの子どもたちが一斉に手を挙げます。作品をオモテからウラへ返す時にも元気に「いち にい の さーん」…。会場も、その意外な展開や変化に「おー！うわあー！」と、歓声と拍手。そしておよそ2時間に及んだワークショップも大変賑やかなうちに終了。吉田先生、石井先生をはじめ、たくさんの方々のご協力、ありがとうございました。少々声はかれましたがとても楽しく充実したワークショップとなりました。子どもたちも、お母さんお父さんと手をつなぎ、とても満足そうでした。（駒形克己）



ワークショップ1：  
作業に夢中の子供たち

### ●ワークショップ1：「駒形克己ワールド」 参加報告

このワークショップは子供と大人がともに「絵本を作る楽しみを味わおう」ということで企画されたワークショップでした。73組の親子(日本女子大学付属豊明幼稚園の親子)が参加しました。ワークショップを展開したのは、グラフィックデザイナーの駒形克己さん

とワンストロークのスタッフの方々です。大きなワークショップになりましたので、アシスタントとして、事前に駒形さんから講習を受けたボランティア(20名ほど)が手伝いました。当日は、まず駒形さんの説明とワンストロークのスタッフによるデモンストレーション。駒形さんと子どもたちとのやりとりはとても活発で、子どもたちのなかでイメージがふくらんでいくのがわかりました。はじめに親と子でテーマを相談し、話がまとまったら別々の部屋に別れて作るという進行でした。すぐ、話がまとまってしまう親子、なかなかまとまらないで「どうしよう、どうしよう」と時間のかかる親子、さまざまでした。相談がまとまって、さあ開始。はじめのうち、「嫌だわー、どうしよう。こまっちゃう。こういうの苦手」といったお母さんのつぶやきも聞かれましたが、いざ始まると嘘のように熱中するお父さん、お母さん。子どもの頃にもどって夢中になって制作するその姿には微笑ましいものがありました。子どもの方は、相談でよくわかったつもりでも、お母さん、お父さんと離れてしまうと不安になってしまい、戸惑う子もいて、そこはボランティアの腕のみせどころとばかりかいかいしく手伝いをする学生の姿がありました。それぞれに作ったカードを表と裏に2枚あわせて出来上がり。全員が集まって開かれた作品の発表会では、「わー凄い！」といった歓声や、「ふーん、そうなるんだ」というため息があちこちで聞かれました。駒形さんの「発表したい人！」という呼びかけに、嬉々として子どもたちが手を挙げ、紹介しきれない程でした。はじめはちょっと苦しかったけれど、でも出来上がった作品はかけがいのない素敵な宝ものといった表情が、どの子からも読みとれました。とても充実したワークショップでした。（日本女子大学 石井光恵）



ワークショップ1：駒形克己ワールド

### ●ワークショップ2：サイバー絵本

講師：今井良朗（武蔵野美術大学） 増成隆士（筑波大学）

日本女子大学児童科の学生と文教大学、武蔵野美術大学の学生、それに準会員、会員など24名が参加。

あらかじめ用意した素材に線や形を加えて、「雨」をテーマに4画面の絵本をコンピュータで制作し、全員で評価した。ここでは、固定概念にとらわれない自由な評価をディスカッションによって発展させ、イメージ・リテラシーについて考えてみることを試みた。ワークショップの目的は、絵本を創ることそのものではなくイメージリテラシー、作品を読むこと、解釈することについて考えてみることを大切にしたい。



ワークショップ2：サイバー絵本体験

この問題は、結果的に絵本を創ろうとする人にとっても、美術教育や幼児教育に携わる人にとっても重要であり、ワークショップもケーススタディーとして位置づけた。

コンピュータ利用のメリットは、同じ素材を使って複数の人が問題を共有できること、同時評価ができることで、発展形はインターネットの利用を視野に入れたものとして行った。(今井良朗)

### ●ワークショップ2：「サイバー絵本」感想

私はコンピュータに興味があり、コンピュータを使用して何かデザイン的なものを制作できるようになりたいと思い、このサイバー絵本のワークショップに参加しました。この講習会で使用していたソフトのPhotoshopは価格が高く、自分では手に入れることが大変な品物で一度も使ったことがなかったので、最初のうちは悪戦苦闘でした。しかし、慣れてくるとペースも上がり使用できるようになっていました。このワークショップの本題のディスカッションでは、独創的な作品が多く見られたし、同じ素材が全員に与えられたにもかかわらず、まったく違った作品に仕上がっていたのには驚嘆させられました。ディスカッションの際に取り上げられた対象にこんなことがありました。それは、「絵の中に文字を入れるべきかどうか?」ということでした。ある人は、文字を入れることによりストーリーがわかりやすいのでは? またある人は文字を入れなくてもわかる、などと意見が出ていました。またある人は、作者がどういう意志を持ってその作品を制作したかが問題なのでは? と発言しましたが、私もこの人と同じ意見でした。作品というものは、その作者の意志でつくられるものであるから、作者がどういうつもりでその作品に取り組んだかで文字の必要性は決定されるのではと思いました。残念だったことに、自分のパソコン操作の未熟さのため作品に拡がりを出せなかったことに後悔が残る結果となってしまいました。自分で絵本をつくりあげていくうちに、絵本の制作というものにたのしみを持って取り組んでいる自分にあらたな発見ができました。自分は絵本づくりに興味があるのでは? ということを発見できたので、このワークショップに参加してよかったと思います。(文教大学教育学部美術専修 高橋和志)

とても絵がかわいらしくて、楽しかったです。でも少し操作が難しくとまどいました。4コマで絵本を作るのは「とてもむずかしい」と、最初から頭が固まってしまう、なかなか進まなくて、文字を入れられる時間がなくなっていました。しかし、4コマまんがのようにしていた方がいるのを見て、もう少し頭を柔らかくして、4

コマだからこそできるおもしろさやスピード感を楽しめばよかったと思いました。(日本女子大学 鈴木江里)

### ●ワークショップ3：絵本をめぐるフォーラムの場 「とっておきの部屋」

コーディネーター：松本猛(安曇野ちろ美術館)

出席者：長新太・長野ヒデ子・太田大八・杉田豊(絵本作家)

「とっておきの部屋」は、当初、絵本学会会員のフリーディスカッションの場を作りたいという発想から出発した。しかし、テーマを持たずにランダムに発言をするだけでは、収集がつかなくなるのではないか、ということから、ゲストに登場してもらい、話題を提供していただくことになった。

今回は第一回目ということもあり、1960年代から活躍されている会員の絵本作家に登場していただくことになった。評論、研究の側から進行役を、ということで、松本がコーディネーターを引き受けることになり、作家の側からの進行助言者として長野ヒデ子さんにも参加していただいた。

グラフィックデザイナーであり、絵本作家である杉田豊さんは『ぼくのあいさつ』や『にらめっこ』などを手に取りながら、インクという素材を使う意味、小さく描かれた原画を何倍にも拡大することの効果など、印刷について考えてこられたことを中心に語られた。太田大八さんは『玉虫の厨子の物語』を例に引きながら、絵巻をはじめ、あらゆるところから参考になる図柄を求め、物語にあった画風で描くという話をされた。『だいちゃんのうみ』は、自らが体験した少年時代の美しい海を描いた作品で、長野ヒデ子さんの近作『海をかえして』とも共通するテーマであることから、絵本が何を語るのかという意見もでた。

長新太さんについては、松本さんの『絵本画家の日記』を紹介して、画家の本音を語っていただこうと考えた。売れる絵本、売れない絵本とは何か、かわいい絵本が売れるのか、編集者は絵について勉強しているのか、何を考えているのか、などが話題になった。また、新作『ゴムあたまのぼんたろう』を素材に、長さんの絵の背景についても話が及んだ。

会場には画家、作家、編集者、図書館員、文庫関係者、美術館員をはじめ、多様な立場の人々が参加していた。それぞれの立場から発言があり、日ごろは知ることのできない考え方に接することができたことは意味があった。しかし、一つの意見が次の意見を呼ぶというようなディスカッションに発展することはなく、課題を残した。

絵本に関する議論風発の議論の場を作るためには、進行方法やテーマの設定、会場構成を含めてさらに研究しなければならないだろう。(松本猛)



ワークショップ3：「絵本をめぐるフォーラムの場」から

【研究発表】 6月7日(日) 9:30～12:00

● 第1会場 (9:30～10:00)

マリー・ホール・エッツ [NINE DAYS TO CHRISTMAS—A Story of Mexico] の2つの不思議を追って

【発表者】 攪上久子

【要旨】 私が、エッツのこの絵本(日本名『クリスマスまであと九日—セシのボサダの日』)に出会ったのは、絵本の中に登場するピニャータに関心を持ったことからでした。94年から2年間メキシコで暮らし、メキシコの人々の心の根源にふれていくような文化の数々の中でも、ピニャータは、私にとってなぜだかたまらない魅力がありました。メキシコでは大変にポピュラーな伝承文化にもかかわらず、きちんとした資料はほとんどなく、よって、このエッツの本は貴重なものだと思います。

私はこの絵本をまず手に入れたとき、親しくしていたメキシコ人二人に見せました。ひとり、大学の先生をしている方だし、もう一人もメキシコでは、インテリに属する人でしたが、二人ともこの絵本は知りませんでした。そのことにまずおどろきました。この絵本は、どういう人がどういう理由で創ったのだろう…。当時エッツについてはほとんど知りませんでした。また、細部に渡りメキシコの伝統的なボサダのお祭りやピニャータが、大変良く描き出されているのに、メキシコ人が黒人と混同されるように描かれているのは一見して違和感がありました。なぜだろう。それが、一つの「不思議」でしたが、私にとってもっともっと大きな「不思議」がありました。それは、この絵本のクライマックスの場面です。セシのピニャータが、本当のお星様になって空に輝く…。それは、お話の筋としてはとてもすてきな完結の仕方なのですが、ピニャータと言う文化の意味をずっと考えてきた私にとっては、なぜこのようにしたのかが、謎でした。それが、二つ目の「不思議」です。

この二つの「不思議」を追いかけていくことは、とても楽しいことでした。私にとって、「絵本」というものの、未曾有の魅力に改めて出会った本でした。

● 第1会場 (10:10～10:40)

絵とテキストの相関性による、メディアとしての絵本の可能性を探る～イギリス絵本の世界展から

【発表者】 元木郁子 (ブライアン・ワイルドスミス美術館)

【要旨】 絵と文の絶妙なるコンビネーションで生み出される絵本。絵と文で構成される絵本は、その関係によりそれぞれの目的を達している。個性的、前衛的といわれる現代のイギリス絵本界を代表する作家を例にとり、絵本と絵とテキストの関係を分類してみた。絵それぞれに高いクオリティを持つ作家が、自己表現の場として絵本をどうみたらか。

①テキスト主動型

・主文絵従型 (ビクター・アンブラス、マイケル・フォアマン)

本来の絵本に最も多い型。もともとテキストがあり、絵は経験の少ない子どもの想像力の手助けとなる。人物や動物のデッサンを得意とするアンブラスは、ピノキオやエルシッドなどで力を発揮し、風景、文化の描写を得意とするフォアマンは世界各地の伝説やおとぎ話にその力量が映える。

・独立型 (クウェンティン・ブレイク)

テキストと絵に直接的、現実的な関係はあまりない。絵はテキストを楽しく面白おかしくするために存在し、テキストを読む合間の娯楽的存在である。

②絵主動型-画集的 (アンソニー・ブラウン)

絵が物語のほとんどを伝えている。本人もまず絵を描いてからテキストを考えるというように、テキストは絵で語りきれない部分を補う形で添えられている。

③図鑑型 (ブライアン・ワイルドスミス)

絵は対象物の本質を描き出すことに重点を置き、テキストは絵そのものを表現している。写実以上に物の本質を伝えるという点で図鑑を超えている。

④相乗型 (チャールズ・キーピング)

テキストと絵それぞれに、強烈に訴える主義主張があり、その二つが絡み合うところで絵本が生み出されている。芸術と表現されるに相応しい絵本。

⑤映像型 (レイモンド・ブリッグズ)

テキストが吹き出しという形で絵の一部になっている。テキストはほとんどが人の発言であり、テキストの説明が省ける分、多数の場面構成が伝達の重要な部分を担う。テレビや映画などの映像表現に近い。

今後は、上記以外の組み合わせを探求することにより、更なる絵本の可能性を考察したい。

● 第1会場 (10:50～11:20)

絵本にみられるオノマトペ～アルファベットによる視覚的効果とその可能性～

【発表者】 小林容子

【要旨】 ここでは、3年前に大学の卒論として発表した『絵本にみられるオノマトペ～アルファベットによる視覚的効果とその技法～』の結論である「Letter Symbolism = 文字象徴」をさらに追求し、絵本の表現方法の可能性を探ることとする。対象は、英語で書かれた「絵本」のみとし、「文字」(アルファベット)の「見た目」(視覚的情報)が意味を持つ(=「Letter Symbolism」)という現象を、実際の絵本をあげて検証していく。



研究発表：会場1の様子

まずはじめに、発表者がオノマトペ(ここでは「音をまねたことば」という広い意味で使用)に興味を持つきっかけとなった絵本『CRASH! BANG! BOOM!』を紹介し、同時にアルファベットによる視覚的効果として、「音」の大きさや長さ、動きが、「文字」の「見た目」に表れている例(=「文字象徴」とする。

次に、オノマトペ以外の名詞・動詞・形容詞に「文字象徴」が見られる例として5冊程絵本をあげ(『Proverbs and Sayings』『Over on the Farm』『The Blue Balloon』他)、「文字象徴」の可能性を提案する: 字体の多様化、「文字」の大きさ+意味=「絵本」そのものの大きさ+形 etc.

その次に、アルファベットそのものの視覚的効果に注目し、3冊のABC本『From Apple to Zipper』『PIGS from A to Z』『ALPHABET MAGIC』を用いて、ABC絵本の新たな可能性を考える: 「文字」と「絵」の一体化 etc.

最後に、オノマトペにおいて「文字象徴」が見られる3冊の絵本『Quacky quack-quack!』『MY MANY COLORED DAYS』『OLD MacDONALD'S BARN』を例にあげ、絵本にみられるオノマトペの表現方法の可能性を探る: さらなる字体の多様化、「文字」の配置のさらなる自由化、「文字」と「絵」の境界線のさらなる接近 etc.

## ● 第1会場 (11:30 ~ 12:00)

### 絵本を使った英語学習

【発表者】 磯崎京子 (淑徳短期大学)

【要旨】 英語の授業に絵本を取り入れ、効果を上げたケースを紹介する。英語専門学校、成人の生涯学習校、短期大学、の三箇所実践した。この授業の目的は英語によるスピーキング能力の向上であるが、その手段としてテキストに英語の絵本を使い、さらに手創りの絵本の作り方、おもしろい日本語への翻訳の仕方、を取り入れ効果を上げた。

言語学者クラッツェンは効果的な英語学習のための以下三つの原則を述べている。

- (1) 学習者にとって興味があり、関連性のあるトピックを選ぶ。
- (2) 学習者の現在のレベルよりほんの少し上の難易度にする(i+1)。
- (3) 学習者の物理的、心理的負担を軽くし、拒絶感を無くす(アフェクティブ フィルターを低くする)。絵本を取り入れた授業は上記三つの要求を満たし、特に(3)の心理的な面でのアフェクティブ フィルターを低くするという点で大きな効果があった。

テキストにはディズニーのシンデレラやピーターパンを使った。簡単な英語なので口頭表現に入っていきやすい。授業ではテキストを見ながら教師対学習者の英語による質疑応答に続いて、学習者はグループに分かれて英文質問の書かれたプリントを見ながら練習し、徐々にプリント、テキストなしでストーリーをしゃべれるようにしていく。さらに手創り絵本の作り方を指導し、絵本にふさわしい日本語訳へのコツも指導する。学習者は「英文+日本語+絵」を盛り込んだオリジナルな絵本を各自が創りあげる。実際の絵本創りの多くは自宅作業となる。

絵本創作という要素が、退屈になりがちな英語の授業に親しみと楽しさと夢を与え、学習者の感性と創造性を刺激し、学習者は驚くほどの熱意と集中力を授業に示した。その結果、クラスにおけるスピーキングは非常に活発となり学習効果をいちじるしく上げた。発表では実際の授業の手順を説明し、学習者の作品を見せた。

## ● 第2会場 (9:30 ~ 10:00)

### 絵本とはなにかー「絵本芸術」序論

【発表者】 千田 篤

【要旨】 絵本は、絵本として一つの芸術のジャンルである。絵本の原画は、原画であって完成品ではない。絵本は、本という制約の中で模索されている芸術である。絵本の特徴は、ページを繰るという読者の動作の中にある。絵本には、大人の知識や経験が必要なものもある。大人が子供の絵本を読むということにも今日的な意味がある。絵本と挿絵本は異なる物である。今なお根強い「絵本は子供のもの」という先入観をきれいに消し去った頭の中に、詰まるところ、絵本を手に取りページを繰るうちに、いかなる感動が沸き起こるか、それによって、その絵本に芸術性があるか無いか判断される。

## ● 第2会場 (10:10 ~ 10:40)

### 絵本の言葉がもつ想像のひろがり

【発表者】 橋爪千恵子 (常葉学園短期大学)

【要旨】 絵本は「絵」と「言葉」からなりたっている。また、絵本の読者は子どもからおとなまで幅広い。したがって、読者はその年齢や立場に応じて、それぞれの読み方や見方で絵本の「絵」と「言葉」をとらえ、自分の中に取り込んでいく。

年齢が低くて、まだ文字の読解能力を獲得していない子どもは、おとなが読んでくれる言葉を聴覚でとらえながら、同時に、描かれている絵を視覚でとらえて、全体を把握する。

一方、文字を獲得できると、文字からなる言葉による理解の度合いが急速に進み、「絵」は「とりあえず見る」程度になっていくことも多い。

前者では、言葉が読まれている時間、絵をすみずみまで見ることで、絵に規定される部分が大きい—それは、それなりに意味をもつが—の比して、後者では、もし絵を見なければ「言葉」から描く「絵」は読み手によってさまざまであるともいえる。つまり、言葉からとらえた絵は、想像の世界で限りない広がりや深さをもつ可能性を、秘めているといえる。

この興味深い課題に取り組んでみたいと考えて、以下のような手順で調査を試みた。

調査内容: 絵本の中の「詩」の朗読を聴いて、内容について想像したり考えたりしたことを、自由に書いてもらう

調査材料: 絵本『木いちごつみ—子どものための詩と絵の本—』(岸田衞子詩、山脇百合子絵)より、「あー、よかった」という一編

調査対象: 短期大学学生(保育科1年生約50名ずつ2クラス)

調査方法: 表紙をクラフト紙で覆って絵がみえないようにし、筆者が2回朗読する。その後、次の項目について、記述してもらう。

①この詩の主人公は女の子か男の子か、及びそう思う理由

②この詩を聴いての感想や想像したことを自由記述

言葉として表現された文章は、学生の想像力をかきたて、さまざまな方向に広がりや深みを生じ、興味深い結果を得ることができた。この結果を分析してみた。

研究発表：会場2の光景



### ● 第2会場 (10:50～11:20)

黒井健における表現内容としての構成について—「くまちゃんにあいたくて」、「ごんぎつね」、「手袋を買いに」に共通するテキストと構成との照応

【発表者】 猿田 量 (島根大学)

【要旨】 絵本とテキストの関係は絵本の基本的問題であるが、本発表では、ある画家が自身以外の作者によるテキストに基づいて絵本を制作した舞台について検討してみたい。

ある画家があるテキストを絵本とする際に、作り出すのは、まず、登場人物の姿、動作、表情、物語展開の舞台となる世界などの個々のモチーフの形態であるが、同時に一つの絵本としての頁割りや展開など全体の構成も行っている。両者相俟ってその画家がそのテキストに加えた解釈を表していると考えられる。

この両者のうち、個々のモチーフの造形化の特徴は、形態把握、構図、描線や色彩の特色として認められやすく、ある作品を越え、複数の作品にわたる特徴、いわゆる画家の個性として議論されやすい。一方、全体構成をめぐる頁割り、頁展開は見るものによって意識されにくく、自明の形式と見なされるか、また突出した特徴を有する場合には、特定の作品に限ったものと考えられ、複数の作品に共通する内容的特徴としては認識されにくい。

絵本作家黒井健が制作した「くまちゃんにあいたくて」は、ある女兒とぬいぐるみのクマ及び両親との関係を主題とした作品であるが、黒井はその全体構成を、自身の先行する「ごんぎつね」、「手袋を買いに」の両作品において用いた構成を踏襲している。黒井はこの3テキストの主題に共通の解釈を加え、それに即した全体構成を共通に行ったと考えられる。

「ごんぎつね」、「手袋を買いに」はともに新美南吉の人と狐という異類の間に生じた関係を描き、その関係の失敗あるいは充実未了を主題とするテキストに基づいている。「くまちゃんにあいたくて」は今江祥智の、女兒と両親の関係の疎隔感を主題とするテキストに基づくが、黒井はこの人類の家族内部の疎隔を表すに自身が異類の関係を表すべく案出した構成を以てすることにより、女兒と両親の関係のあり方を鮮烈に表現している。黒井健がこの3作品を通して示したことは、全体構成という形式も絵本の主題内容を表現する内容的手法であることの好例である。

### ● 第2会場 (11:30～12:00)

絵雑誌「コドモノクニ」の研究～出版・編集のサイドから～東京社の創業者であり編集責任者であった鷹見久太郎(思水)家へのこる資料と彼の人物、仕事を通して

【発表者】 鷹見本雄

【要旨】 大正11年(1922年)東京社が創刊した絵雑誌「コドモノクニ」は、形式、内容共に日本の絵本史上画期的なものであり、特筆すべきものとして高く評価されている。

発行部数は最盛期でも3万部をこえることはなかったが、その影響はきわめて大きく、大正から昭和にかけて、童画、童謡発表の主舞台となり、多数の若き人材を次々と登場させた。鈴木三重吉の「赤い鳥」と並んで、近代日本の児童文化を代表するものと評価され、幼ない時「コドモノクニ」を見て育った人達の心の中には今も懐かしいものとして生き続けている。

このような絵雑誌をどうして創りえたのか、東京社の創業者の一人で編集部門の責任者であった鷹見久太郎(思水)家へのこる資料と彼の人物、仕事を通して出版・編集のサイドからアプローチする。東京社とは、どのような出版社であったのか、創業のいきさつと刊行した雑誌とその特色を明らかにし、創業者鷹見久太郎(思水)という人物の思想、人脈、仕事を通して出版、編集人としての久太郎=東京社の出版、編集理念と志を探る。

次に絵雑誌「コドモノクニ」とは具体的にどのような本であったのか、絵、詩(童謡)、童話、音楽、舞踊振付等各構成要素を創り出した人達を分野別に時系列で明らかにすると共に、その相互の関係と作用を探ることにより、「コドモノクニ」の魅力がどうして創り出されたのか、また、その果たした役割と影響がどのようなものであったのか明らかになる。そして、東京社=久太郎の(絵)本創りに対する理念と人脈が、総合的プロデューサーとしての能力が、「コドモノクニ」の創刊と内容づくりにどう活かされたか、秀れた本を創り出すための出版人の役割と重要性について考える。

●ラウンドテーブル1

絵本と保育Ⅰー子育てに生きる絵本とともにー

コーディネーター：岩崎真理子（日本児童教育専門学校）

話題提供者：今井和子（東京成徳短期大学）・松井るり子（文筆業）



（ラウンドテーブル1：左から岩崎・松井・今井氏）

絵本を子どもと一緒に読みあっていると、今まで知らなかった絵本のおもしろさに気づかされます。しかも、子どもひとりひとりが、その育ちの中で見ている世界、感じている世界を、絵本を媒体にして私たち大人に教えてくれます。そこをつきつめて考えてみると、子どもとの読みあいの実践の中から、絵本の研究が拓けていく可能性と、個々の子どもの育ちを理解するてがかりになる可能性を実感することができます。

ラウンドテーブル1では、子どもの育ちに寄り添う立場から、ユニークでわかりやすい絵本論を展開している今井和子・松井るり子両氏に話題を提供していただき、参加者約30人からの活発な意見も交えて、自由に話し合うことができました。一人の育ちの中でも、成長に応じて一冊の絵本の読みに違いがあることや、兄弟姉妹がともに母親と絵本を読みあっても、個々に違った世界を感じていることなど、子育てに生きる絵本の価値を確かめつつ、子どもの絵本の読みの豊かさを実感することができました。（岩崎真理子）

●ラウンドテーブル2

絵本作家研究Ⅰーモーリス・センダックー

コーディネーター：吉田新一（日本女子大学）

話題提供者：藤本朝巳（関東学院大学）・三宅興子（梅花女子大学）・佐々木宏子（鳴門教育大学）



（ラウンドテーブル2：左から吉田・三宅・藤本氏）

センダックは現代のもっとも関心呼びやすい絵本作家の一人で参加者も多く、活発な意見がきかれた。直前の止む終えない事情で佐々木弘子氏の参加がえられなかったのが残念だったが、「かいじゅう」が出版された時（スポック博士の育児書全盛期）に米国留学中で当時の反響を直接体験された三宅興子氏からは、センダック作品の受容の歩みが語られた。子どもが示した受容能力に対して、それとタイムラグを置いて大人がどう受容してきたか、80年代以降になって作品の構造分析から、研究方法の模索が始まる過程が概観された。藤本朝巳氏からは、センダックの物語構造と昔話のそれとの類似性、また、センダックの父が語った物語の分析を通して、伝承文学からの影響について、さらに、センダックの、特にグリム作品

につけたイラストレーションの特質について、分析がなされた。参加者からは、実際に子どもたちがセンダックの作品にどういう関心をもつか、具体例が披露されたりして、子どもの受容の仕方をめぐって議論がかわされたり、センダックが視覚的思考をする人であるところが、視覚的思考の積み重ねをする子どもと親近性をもてる理由との理解がみられたり、刺激的見解の交わされたセッションであったと思う。（吉田新一）

●ラウンドテーブル3

絵本と地域活動Ⅰー赤ちゃんから絵本を&障害をもつ子に読書の喜びをー

コーディネーター：渡辺順子（日本図書館協会評議員）

話題提供者：飯島佳代子（保健婦）・本多とも子（おひさま文庫）・杉田陽子（てのひらの会）



（ラウンドテーブル3：左から渡辺・杉田・本多・飯島氏）

“すべての子どもに読書の喜びを”、これは全国各地で文庫活動をしている人たちの願いです。読書は“思考・想像・創造”という最も人間らしい、人間ならではの営みです。その根底に言語があります。ラウンドテーブル3では図書館における児童サービスの課題でもある(1)乳児サービスと(2)障害児サービスの二点について、練馬区と三鷹市での実践例を報告しました。

(1)赤ちゃんから絵本を～保健所文庫活動

言葉は0才から始まります。しかし、核家族化、都市化、テレビ守時代に孤立し、育児不安に陥りがちな親たちがどれだけ肉声での語りかけをしているのでしょうか？練馬区では、育児ノイローゼの予防と赤ちゃんの言葉と心を育む手段に「絵本」をフル活用しています。それが保健所全6ヶ所で行われている文庫活動です。保健婦とボランティアによって生き生きと続けられている姿を、具体物を持ち込んで報告いたしました。

(2)障害をもつ子にも読書の喜びを！

子どもは言葉と五官を駆使した体験を通して発達していきます。重い障害をもつ子どもたちにも、日々の暮らしがあり、成長の過程があります。障害をもつ子どももたない子ども「布の絵本」による遊びのなかから共に成長していくことを願って、一針一針に心をこめて製作をしています。てのひらの会は、東京布の絵本連絡会のグループの一つで、三鷹市で17年前から活動を続けています。当日会場には「布の絵本ってなあに？」という方々のために、存分に見て、さわって、感じていただけるよう、実用からアートまで多種多様な布の絵本を展示いたしました。もっと知りたい人のために、ガイドブック「布の絵本からのメッセージ」も用意しました。私たちは子どもの文化である「絵本」を通して、この子どもたちから人権回復、人間性回復、生きる原点、文化の原点を問われ続けています。子どもの文化に関わることは、人類の未来に関わることであり、あらためて大人たちの責任と役割の重大さを感じています。（渡辺順子）



(ラウンドテーブル4：左から中川・笹本・福田氏)

●ラウンドテーブル4

絵本と造形表現Ⅰ－絵本の視覚表現生のもつ力と楽しさ－

コーディネーター：中川素子（文教大学）

話題提供者：笹本 純（筑波大学）・福田繁雄（グラフィックデザイナー）

用意した資料が足りなくなり、教室に入れられない人もいたほど多数参加して下さったこの会に、今までとりあげられることの少なかった「絵本の造形表現」に対する熱い思いを感じたのは、私だけではないことと思う。また、いくつもの好評を後からいただいたのは、次会に成果を積み重ねられるよう事前の打ち合わせに時間をさき、たくさん資料を用意して下さった笹本、福田両氏のお陰に他ならない。笹本氏は、ヴィジュアルコミュニケーションとしてのデザインを絵本、漫画、映画、印刷論など広い立場から研究されているが、今回は絵本の絵の構成論にしばってお話いただいた。A3六枚の裏表にびっしりコピーされた図を見ながら、画面の配置の仕方、話の内容を効果づける絵の方向性、頁をめくることによる意外性の演出、視点の動きや視点の主体が意味するもの、時間や多くの情報をとり込んだ背景、絵の繰り返しや戻り取り式反復や再提示などについて、歌麿の絵などもとりまぜながら密度高くまとめて下さった。

中川は、時代がもつ視知覚と表現への目配りが絵本を語る上で必要なことをスライドを見せながら話した。科学や機器の進歩、情報メディアの増大、心理学に於る人間解釈の変化、現代の社会学的視点による母親像など、また現代美術に於る表現の拡大や肉體性への重視などが絵本の中にも少しずつであるが確実に姿を表している。それらを認識することも絵本の可能性につながるのではと問題提起した。福田氏は、世界的に活躍しているグラフィックデザイナーだが、1960～70年代に於る氏の絵本は今までの絵本論の中で殆どとりあげられていない。ムナーリやポール・ランドと時代を共にした仕事を把握し直すことは、絵本研究に於て欠くべからずことであり、超多忙な氏に無理にお願いし来ていただいた。氏はユーモアのある語り口で個性とは時代とライバルが作り出すことやムナーリに於る素材、レオ・レオニやソウル・バスのグラフィック的発想について語って下さった。そして何より参加者を喜ばせたのは、「ボール」、「ハムレット」など自家本を十冊近くお持ちいただいたことである。同年代の他の美術ともクロスしたこれらの絵本は、確実に現代の絵本を先取りしていて興味深かった。絵本の造形表現を語る三者三様の視点が、これからの絵本研究に役立つことができばうれしい。参加者の皆様、ありがとうございました。(中川素子)

●ラウンドテーブル5

絵本と表現・ことばⅠ－翻訳の問題をめぐる－

コーディネーター：川西芙沙（翻訳家）

話題提供者：田中素子（大阪外語大学）・西野谷敬子（編集者）・高鷲志子（明治学院大学）

田中素子、高鷲志子、西野谷敬子の三氏に予定通りそれぞれ話題を提供して頂いた。田中素子氏は昔話の絵本「大きなかぶ」を取り上げ、内田莉紗子訳と西郷竹彦訳を比較して、ロシアの原話を絵本にした時の問題点を指摘した。変更の効果と許容範囲を具体的に示し、また、ロシア語の特性を翻訳で十分伝えることは難しいが、訳文としてはロシア語の雰囲気や情緒などをよく伝えたものが好ましいとした。昔話の場合は、再話者名を必ず入れるべきだと指摘もあった。高鷲志子氏はレオニの『あおくとときいろちゃん』とベスコフの『ペレのあたらしい服』を取り上げ、前者ではテキストの読みの問題、後者では絵の読みの問題を指摘した。『あおくとときいろちゃん』では全体に言葉の幼児化が見られ、本の解釈を狭めていること、原文のテーマがきちんと読み取れないことを挙げた。『ペレのあたらしい服』では絵の読み取りが不十分なため、絵にそぐわない訳文になっている箇所を挙げた。

西野谷敬子氏は編集者として訳者の文体は重視するが、子どもの気持ちにぴったりくる文章かどうかの検討も大切であることを述べた。よい訳文の例としてフリーマンの『くまのコール天くん』、アンゲラーの『すてきな三人組』、セイラーの『ぼちぼちいこか』、ヨーレンの『月夜のみみずく』を挙げた。『ぼちぼちいこか』は意識に近いが、関西弁で独特の味を出している巧みさを評価した。さまざまな問題が提起されたが、結果的には時間配分がうまくいかず、今回は問題点をしぼりこんだ議論ができなかった。どの問題をとっても二時間程度の論議は十分必要であるし、これからさらに問題を細分化しての話し合いの場が持てればと思う。いずれにしても絵本の翻訳の問題について、その特性を考えるための第一歩を踏み出せたことの意義はあったといえるだろう。(川西芙沙)



(ラウンドテーブル5：左より高鷲・西野谷氏、写真下段：左より川西・田中氏)

## 【絵本フォーラム '98 PART2】のご案内

絵本学会主催の『絵本フォーラム '98 PART』が、来る9月20日(日)午前10時より、東京の世田谷文学館で開催されます。『絵本フォーラム』は、絵本学会の活動の一つの柱として「さまざまな分野で絵本に関心を抱く人々が集まって、自由に絵本との関わりを語り合い、絵本の体験や創作や研究の成果を発表し合える場」として位置づけられています。

記念すべき第1回は、本年1月15日、『絵本は「いま」～現場からの報告』というテーマで開かれました。受容・創作・流通・再発見の4つの異なる現場で絵本に携わる方々からの報告を柱に、参加者の皆さんに気楽に絵本の現況を語り合っていました。

そして第2回目の今回のテーマは、「よい絵本」ってなんだろう? です。絵本の評価をめぐる論議は、最近すいぶん活発になってきているものの、一般の読者(とくにお母さん・お父さん方)は、絵本を選ぶとき、何を基準にすればよいのかわからないまま、つい「選定図書」や「ブックリスト」などの権威にたよってしまいがちです。しかしそれらが果たして絵本の持つ魅力の多彩な側面を十分に伝えているものなのかどうかは大いに疑問があるところです。一方、作り手の側からは、「良い作品なのに売れない」と嘆く言葉もまたよく聞こえてきます。「よい絵本」という言葉だけが一人歩きし、その実、その本質が深く議論されることが今までほとんど無かったのも不思議なことです。

そこで今回のフォーラムでは、この「よい絵本」とは、一体どんなものなのか、「売れる絵本」は「よい絵本」ではないのか。等々、それぞれに異なった立場で絵本と正面から取り組んでおられる3人の方々(『こたごた絵本箱』等の著書でお馴染みの松井るり子氏、「絵本心理学」の領域で精密な絵本分析をされている鳴門教育大学の佐々木宏子氏、福音館書店の「こどものとも」編集者澤田精一氏)に、それぞれの立場から問題を提起していただき、皆さんでワイワイガヤガヤと意見を交換していただけます。

会場は、第1回に続いて、世田谷文学館に引き受けていただきました。芦花公園近くの、文学の薫り高い素敵な空間です。第1回当日は、あいにくの大雪のため、ご参加を見合わせた方も多く、残念な思いをいたしました。今回は是非見学を兼ねて、全国から多数の方々にご参加されることを希っております。

“よい絵本”って何だろう?

日時= 1998年9月20日(日)10時~16時30分

会場= 世田谷文学館 文学サロン

(京王線芦花公園駅南口徒歩5分)

主催= 絵本学会/世田谷文学館

### ●第一部● 講演

1. 読み手の立場から 松井るり子氏 (絵本水先案内人)
2. 研究者の立場から 佐々木宏子氏 (鳴門教育大学教授)
3. 創り手の立場から 澤田精一氏 (福音館書店編集部)

### ●第二部● 談話サロン

3部屋に分かれ、第一部の講演者を囲んで談論風発。

S1: 松井るり子氏の部屋

S2: 佐々木宏子氏の部屋

S3: 澤田精一氏の部屋

### ●第三部● 報告

各談話サロンからの報告

参加費(資料代)= 会員 500円・非会員 1000円

\*参加申込みは、必ず往復はがきで、8月末日までに下記へ(定員150名、先着順)

申込み・問合わせ= 世田谷文学館 絵本フォーラム係

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

TEL:03-5374-9111 FAX:03-5374-9120

郵便往復はがき (返信・表)

50

返信

あなたのご住所

あなたのご氏名

(往信・裏)

「絵本フォーラム」  
参加申込書

住所

氏名

TEL/FAX 番号

年齢・職業

会員 or 非会員

第二部参加希望の部屋名

今回のフォーラムで語り合いたいこと  
(ご自由にお書き下さい)

郵便往復はがき (往信・表)

50

往信

世田谷区南烏山1-10-10

世田谷文学館  
絵本フォーラム係 行

## ●絵本関係展覧会・イベント

### ◎絵本関係展覧会・イベント

#### ●ちひろ美術館

《ちひろ・母と子の絵本展》 開催中～1998.10.4(日)



《中谷千代子展—どうぶつたちの詩—》 開催中～1998.10.4(日)



母のまなざしで、水彩のにじみを活かして、子どもたちの姿をとらえたいわさきちひろ。絵本には珍しい油彩で、詩情豊かな動物たちを描いた中谷千代子。子どもと動物の上に、2人の画家が同じく描きだしたものは、かけがえのない生命の美しさ、命あるものへの愛情でした。心が濁いた時や、何かを見失っている時に、2人の絵は、心の奥に閉じ込めていた優しい気持ち—人間として最も大切な感情を思い起こさせてくれます。(後援：絵本学会/JBBY)

【開 館】 10:00～17:00(金曜日は19:00まで)

【休館日】 月曜日(祝日開館、翌火曜日休館)

【入館料】 大人500円・中高生200円・小学生100円

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

テレホンガイド:03-3995-0820

#### ●安曇野ちひろ美術館

《ちひろ生誕80年記念 ちひろ 平和への願い》

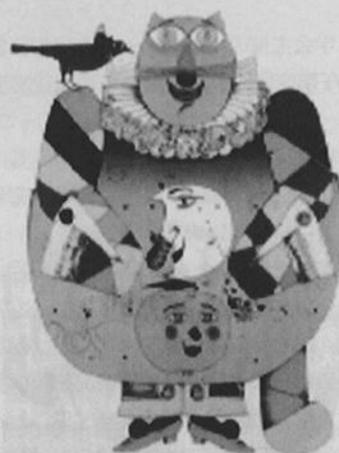
開催中～1998.9.15(火)

1974年8月8日、いわさきちひろは55才でその生涯を閉じる。ちひろが亡くなったその年に出版された2冊の絵本『ぼちのきたうみ』と『戦火のなかのこどもたち』とともに、きらめく太陽をあびて輝く夏の子どもたちを描いた代表作を展示。

《クヴィエタ・パツォウスカー展》

子どもの本のイラストレーションやグラフィックデザインなどオリジナリティあふれる作風で国際的な評価の高いチェコの女性アー

ティスト、クヴィエタ・パツォウスカー。自由な発想から生まれた彼女の作品は紙の彫刻やインスタレーションなど空間を活かした3次元の世界にまで広がり、美術館の周囲の安曇野ちひろ公園にある彼女のデザインしたオブジェは実際に遊べるしかけがほどこされている。本展では1980年代の作品から新作まで、大型の立体作品も含め約60点を展示。



【開 館】 9:00～17:00(8月は18:00まで)

【休館日】 水曜日(祝日は開館、翌日休館) / 8月は無休 / 9月17日(木)は展示替えのため臨時休館

【入館料】 大人800円・中高生500円・小学生300円

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

☎0261-62-0772

#### ●軽井沢絵本の森美術館

《グリム童話の絵本展—口伝えから世界の絵本へ—》

開催中～1998.10.4(日)

今展では挿絵の歴史に重点を絞り、絵がつけられていった過程と世界中で読み継がれているグリム童話の絵本を紹介。古典的絵本から現代画家によるイラストなど、日本におけるグリム童話の需要の歴史を交え、世界中のグリム童話絵本およそ120点を公開する。

B展示室：童話の誕生から19世紀の挿絵本

A展示室：20世紀における絵本原画と絵本

C展示室：日本における受容と現代を彩るイラスト

A展示室：高橋健二メモリアルコーナー

【開 館】 9:30～17:30

【休館日】 火曜日(7～9月は無休)

【入館料】 大人800円・中高生500円・小学生400円(エルツおもちゃ博物館との共通割引セット券：大人1000円・中高生700円・小学生500円もあり)

〒399-01 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

☎0267-48-3340

#### ●大島町絵本館

・ギャラリー

《生誕90年記念 とやまの絵本作家 井口文秀絵本原画展》

開催中～1998.9.29(火)

絵本原画『むささぶのコロ』他を展示。

・カフェギャラリー

《北岡哲 立体造形展～SAKANA～》

開催中～1998.8.30(日)

《竹島俊夫パステル原画展～京都・奈良の風景》

1998.9.1(火)～9.29(火)

・ラウンジ

《夏休み特別教室 絵本の製本教室》



と き：1998.8.4・5・6・26・27(うち1日)

受講料：1500円(各回定員10名)

[開 館] 10:00～18:00

[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌日)、月末日

〒939-0283 富山県射水郡大島町鳥取50

☎0766-52-6780

#### ●トムズボックス

トムズボックスは、吉祥寺にある四坪しかない小さな絵本専門店です。

トムズボックスオリジナルの絵本もたくさんあります。

四坪しかないのに片方の壁面は、なんとギャラリーになっております。

8月は木村昭平

9月は伊藤秀男

10月は井上洋介

11月は河村要助

12月は長 新太

という予定で展覧会をします。

[営業時間] 11:00～20:00

[定休日] 木曜日

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-14-7

☎0422-23-0868

#### ●ブライアン・ワイルドスミス美術館

《ポップアップ!～飛び出す絵本の楽しい世界～》

開催中～1998.10.6(火)

1982年に初めて仕掛け絵本を制作して以来、平面性を超える絵本の可能性に関心を抱いてきたワイルドスミス。絵を立体化することで更にページをめくる楽しさが増し、積極的に絵本を楽しむきっかけとなると考えた飛び出す絵本「ノアのはこぶね」と『天地創造』の原画約60点を展示。

[開 館] 9:00～17:00

[休館日] 水曜日

[入館料] 大人700円・小学生500円

〒413-0235 静岡県伊東市大室高原9-101

☎0557-51-7330

#### ●いわむらかずお絵本の丘美術館

《今森光彦写真展「里山物語」》

《いわむらかずお絵本原画展「里山の仲間たち」》

開催中～1998.10.18(日)

里山に生きる小さな生命を見つめ、自然の豊かさ、その魅力を語りかける、ふたりの里山展

・イベント

《ミュージアムトーク 今森光彦×いわむらかずお》

日時：1998.9.5(土) 17:15～18:30

場所：絵本の丘美術館ティールーム

対象：小学生以上

定員：60名 要予約

参加費：2000円(お茶とお菓子付)

《今森さんとえほんの丘観察会》

日時：1998.9.6(日) 10:00～12:00

場所：えほんの丘

定員：30名 要予約

参加費：1500円(保険料、入館料を含む)

《えほんの丘の音楽会》

1998.10.10(土) 18:00～19:30(予定)

うた：バスバリトン 池田直樹・メゾソプラノ 池田早苗

おはなし：いわむらかずお

詳細は企画中です。

[開 館] 10:00～17:00

[休館日] 月曜日 臨時休館日1998.10.19(月)～10.21(水)

[入館料] 一般900円・中高生700円・小学生500円・幼児300円

〒324-0611 栃木県那須郡馬頭腸大字小砂3097

☎0287-92-5514

#### ●大阪国際児童文学館

《大阪で誕生した絵雑誌「お伽絵解 こども」と編集主任 辻村秋峯》

開催中～1998.9.29(火)

明治37年、大阪朝日新聞社学芸部の記者 久保田小塊と辻村秋峯により創刊された幼児向け絵雑誌「お伽絵解 こども」を紹介。

[開 館] 9:00～17:00

[休館日] 水曜日・月末日 (水曜日が祝日の場合は翌日休館、月末日が水曜日の場合はその前日も休館)

[入館料] 無料

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園10-6

☎06-876-8800

#### ●弥生美術館

《伊藤幾久蔵展～幾久蔵と怪人の系譜～》

開催中～1998.9.27(日)

大正末から昭和30年代にかけ、少年雑誌を中心に挿絵を描いて活躍した伊藤幾久蔵の初の展覧会。さらに、日本における怪人画の系譜にも触れる。

[開 館] 10:00～17:00(入館は16:30まで)

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌日休館)

[入館料] 一般700円・大高生600円・中小生400円(隣接の竹久夢二美術館と共通)、立原道造記念館も観賞できる三館共通券(1000円)もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

☎03-3812-0012

#### ●竹久夢二美術館

《竹久夢二 大正ハイカラ風俗展—花開く大衆文化—西洋の香りに包まれて—》

開催中～1998.9.27(日)

夢二作品250点と当時の資料を通じて、古き良きロマンが漂う大正時代の風俗を振り返り、そのハイカラな世界を紹介。

[開 館] 10:00～17:00(入館は16:30まで)

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌日休館)

[入館料] 一般700円・大高生600円・小中高生400円(隣接の弥生美術館と共通)、立原道造記念館も観賞できる三館共通券(1000円)もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

☎03-5689-0462

●ペイネ美術館

《収藏品展②》

開催中～1998.9.25(金)

館収藏品による展示、水彩画・ペン画・リトグラフなどによって約60点で構成。また、新収蔵になった作品群もあわせて展示。

【開館】9:00～17:00

【休館日】会期中無休

【入館料】大人900円・小中学生500円

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢217 軽井沢タリアセン内

☎0267-46-6161

●黒姫童話館

《熊谷元一の世界展》

開催中～1998.9.29(火)

童画家であり写真家である熊谷元一氏の童画・写真をとおして、大正～昭和の激動の時代にありながらも限りなくのびやかな子どもの世界を紹介。

【開館】9:00～17:00

【休館日】3月・5月・6月・9月・10月・11月の末日(日祝日の場合は翌日)

【入館料】一般600円・3才以上～中学生400円

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町黒姫高原3807-30

☎026-255-2250

●斑尾高原絵本美術館

《ルーシー・カズンズ展》

開催中～1998.10.5(月)

【開館】9:30～18:00

(休前日は19:00まで)

【休館日】火曜日(祝日開館)

【入館料】700円(飲み物付)・幼児無料

〒389-2257

長野県飯山市斑尾高原11492-224

☎0269-64-2807



●絵本美術館&コテージ 森のおうち

《安野光雅のやさしい世界》『野の花と小人たち』絵本原画展

開催中～1998.9.1(火)

《二百十日の風にのって又三郎がやってくる》

1998.9.4(金)～11.24(火)

小林敏也と伊藤英子の『風の又三郎』絵本原画展

《アンデルセン『マッチ売りの少女』絵本原画展》ハーナデット・ワッツ

1998.11.27(金)～

【開館】9:30～17:00

【休館日】木曜日(祝日開館、翌日休館)

【入館料】大人700円・小人500円

〒399-8301 長野県南安曇郡穂高町大字有明2215-9

☎0263-83-5670

●武井武雄の世界 イルフ童画館

・第1企画展示室

《深澤省三 童画展》

開催中～1998.12.2(水)

武井武雄と共に日本童画家協会を設立した深澤省三の童画の世界を3期に分けて 介。

第一期 赤い鳥・子供之友のころ 1998.7.31(金)～9.2(水)

第二期 キンダーブックの時代 1998.9.4(金)～10.14(水)

第三期 かみしばいの世界(NHK紙芝居より) 1998.10.16(金)～12.2(水)



《熊谷元一展》

1998.12.4(金)～

・武井武雄作品展示室

《木にとまった木のはなし》

開催中～1998.9.30(水)

黒柳徹子作の初めての絵本で、武井武雄に挿絵を依頼し承諾を得るが3週間後に武井氏が他界、その後武井氏の娘、三春さんが、文章に合った絵を氏の作品から選出するというかたちで完成した。

《大沢コレクション展》武井武雄作品展示室

1998.10.2(土)～

・夏休みイベント

日時：開催中～1998.8.23(日) 14:00～

場所：1F 無料スペース はらっぱ

絵本読みみかせ・紙芝居・パネルシアター・工作・ビデオ上映

【開館】10:00～19:00

【休館日】木曜日

【入館料】一般800円・中高生400円・小学生200円

〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1

☎0266-24-3319

●小さな絵本美術館

・岡谷本館

《荒井良二絵本原画展》

開催中～1998.8.31(月)

絵本「スースーとネルネル」(偕成社刊)、月刊誌 おおきなぼけっと 表紙絵・原画の展示。

《今森光彦写真展》

1998.9.4(金)～10.26(月)

「昆虫記」「里山物語」などで有名な写真家今森氏の写真展。ファーブル昆虫記の冒頭にも登場したスカラベ(ぶんころがし)をケニアの大地で撮影した写真30～40点を展示。

《Maja Dusikova 絵本原画展》

1998.10.30(金)～12.23(月)

チェコ出身の絵本作家による原画展。「Ein Geschenk von Nikolaus」「Du warst es! sagte Berberitz」(Nord Sud 社刊)など。

・ハケ岳館

《瀬川康男/西村繁男 絵本原画展》

開催中～1998.9.7(月)

瀬川康男：「西遊記」「絵巻平家物語」習作、タブロー、版画など展示。  
西村繁男：「おふろやさん」「絵で読む広島原爆」の絵本原画展示。  
《フェリックス・ホフマン展～父から子への贈りもの》

1998.9.11(金)～12.6(日)

グリムの童話絵本で知られるスイスの画家フェリックス・ホフマンの  
展覧会。4人の子どもたちに贈った手描き絵本「おおかみと七ひきの  
こやぎ」「ねむりひめ」「ラプンツェル」「七わのからす」の展示、  
版画、カード、日本未出版の原画、スイス各地に残る壁画、ステン  
ドグラスの写真や下絵などを紹介。

【開館】10:00～17:30(入場は17:00まで) 8月以降は30分  
短縮

【休館日】火曜日

【臨時休館日】岡谷本館 1998.9.2(水)～9.3(木)・10.28(水)～  
10.29(木)・12.24(火)～1999.2.28、ハケ岳館 1998.9.9(水)  
～9.10(木)・12.7(月)～1999.3.20 ころ

【入館料】大人700円・中高生400円・小学生300円

〒391-0115 長野県諏訪郡原村原山

☎0266-75-3450

### ●絵本の樹美術館

《太田大八絵本原画展》『絵本西遊記』全点  
《なかえよしお+上野紀子「絵本への試み」展》

1998.9.12(土)～11.23(月)

【開館】10:00～17:00

【休館日】水・木曜日(祭日・3月・8月無休)

【入館料】大人600円・3才～中学生300円

〒409-1501 山梨県北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-4579

☎0551-38-0918

### ●竹久夢二伊香保記念館

《夢二 粋いきの世界(1)》

開催中～1998.10.20(火)

夢二がデザインした浴衣、半襟の原画、手拭  
などの多様な作品を紹介。

《夢二の絵はがき展》

開催中～1998.11.20(金)

夢二が書き送った肉筆絵はがきや月刊『夢  
二エハガキ』とその原画をあわせて展示。

《大正の西洋人形とガラス食器展》

開催中～1998.12.10(木)

不思議な運命によって里帰りした日本製ビスケットとオールドノ  
リタケやガラス等の大正の食器を展示。

・第3回サロンコンサート ハープで奏でる夢二の世界

ハープ奏者・富田慧子さんによる演奏

日時：1998.9.22(火)16:00、9.23(水)10:30

場所：夢二黒船館 夢二ホール

定員：各80名(有料)

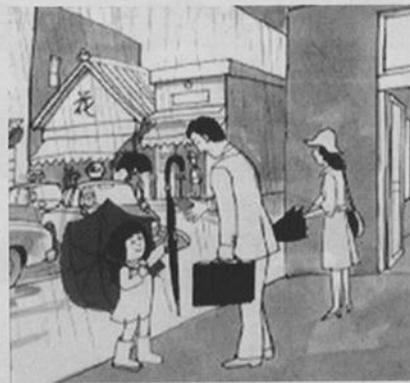
【開館】8:00～18:00

【休館日】無休

【入館料】大人1500円・小人1200円

〒377-0102 群馬県北群馬郡伊香保町544-119

☎0279-72-4788



### ●平田市立旧本陣記念館

《太田大八絵本原画展》

開催中～1998.8.31(月)

太田氏の名作『かさ』と最新作『絵本西遊記』のすべての原画を一  
堂に展示。

【開館】9:00～17:00

【休館日】火曜日

【入館料】一般520円

〒島根県平田市平田町515

☎0853-62-5090

### ●尼崎市総合文化センター美術ホール

《絵本原画展～絵本界のニューウェーブ～荒井良二・飯野和好・スズ  
キコージ・高部晴市》

1998.8.19(水)～9.13(日)

イラストレーターとしての個性を十分に発揮しつつ、文章表現にお  
いても自らの制作によって新しい絵本を生み出している4人の作家  
を紹介。従来の枠には収まらない、斬新な造形意識と強烈な個性に  
溢れた12作品約240点を展示。

・サイン会 荒井良二氏・飯野和好氏が来館!

日時：1998.8.22(土) 13:00と15:00

場所：美術ホール会場

【開館】10:00～18:00(入館は17:30まで)

【休館日】火曜日

【入館料】一般600円・中高生400円・小学生200円・親子券700円

〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通り2-7-16

☎06-487-0806

### ●朝日カルチャーセンター教養講座

「作家に聞く 絵本創作の秘密」(絵本学会後援)

【主旨】

絵本に興味のある人、絵本作家を目指す人たちが絵本学会が強力に  
バックアップ。

本講座は、現在活躍中の人気絵本作家が自分の作品を題材に画面構  
成、ストーリー展開、絵と文の組み合わせ、さまざまな創作手法な  
どを披露します。また、アイデアから取材、ラフスケッチを経て一  
冊の絵本が完成するまでの各プロセスで注意すべきポイントをコー  
ディネーターがゲストに質問します。

【日程】

1998.10.24(土)

ゲスト：杉田豊

コーディネーター：川西美沙（絵本学会企画委員）  
 1998.11.14(土)  
 ゲスト：長野ヒデ子  
 コーディネーター：川西美沙（絵本学会企画委員）  
 1998.11.28(土)  
 ゲスト：若山憲  
 コーディネーター：岩崎真理子（絵本学会企画委員）  
 1998.12.12(土)  
 ゲスト：川端誠  
 コーディネーター：生田美秋（絵本学会企画委員）  
 1998.12.26(土)  
 ゲスト：未定  
 コーディネーター：生田美秋（絵本学会企画委員）

## ● 公募のお知らせ

●第15回ニッサン童話と絵本のグランプリ 創作童話・絵本の作品募集  
 主催／財団法人 大阪国際児童文学館、協賛／日産自動車株式会社  
 (応募要項)  
 テーマ：構成、時代などテーマは自由で、未発表の創作童話、創作絵本に限ります。  
 応募資格：年齢、性別の制限はありません。作品を商業的に出版されたことのないアマチュアの方に限ります。  
 応募先：〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園 10-6  
 (財)大阪国際児童文学館ニッサン童話と絵本募集係  
 ☎06-876-8800  
 締め切り：1998.10.31(土) 当日消印有効。  
 お問い合わせは上記(財)大阪国際児童文学館  
 または日産自動車(株) 広報部 社会文化室 ☎03-5565-2132 まで。

## 事務局からのお知らせ

### ●研究論文集の論文公募再度のお知らせ

#### 研究論文集投稿要領

1. 投稿者の資格：絵本学会会員および準会員
2. 掲載の対象：絵本に関する研究論文、調査研究、研究ノートで、未発表のもの。
3. 掲載者の決定：受理した論文は、査読の上編集委員会が掲載の採否を決定する。
4. 刊行までの日程：(1)原稿提出受付期間は、1998年9月30日(必着)とする。(2)掲載の採否は、編集委員会の議を経て10月末日までに決定し通知する。(3)刊行は、1998年度内とする。

#### 執筆要領

1. 日本語による横書きとする。
2. 原稿枚数は、1論文あたり400字詰め原稿用紙で20枚から40枚までとする。
3. 原則としてワープロ原稿とし、表紙に原稿の種類（研究論文、調査研究、研究ノート）、論文タイトル（和文、英文）、執筆者名（ローマ字を併記）、所属機関、専門分野を明記する。
4. 執筆にあたっては、「執筆要領」に基づいて作成する。「執筆要領」は、事務局に請求すること。

5. ワープロ原稿には、フロッピーディスクを必ず添付すること。データは、MS-DOSまたはマッキントッシュデータ。
6. 図版はモノクロを原則とする。カラー図版を希望する場合は、自己負担とする。
7. 論文掲載者には、掲載誌5部と抜き刷り30部を無料で呈する。

#### 原稿提出先

原稿は絵本学会事務局宛に郵送すること(FAXによる送付は不可)。

#### ●理事会・運営委員会

5月10日 理事会・運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
 議題

- ・第1回絵本学会大会について
- ・1997年度活動報告について
- ・1997年度決算報告について
- ・1998年度活動計画案について
- ・1998年度予算案について

6月6日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
 議題

- ・第1回絵本学会大会進行について確認

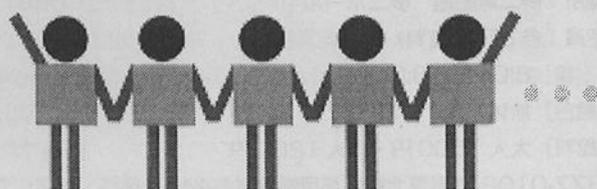
7月12日 理事会・運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
 議題

- ・第1回絵本学会大会報告について
- ・絵本学会会則について
- ・出版企画および機関誌の刊行について

#### ●専門委員会から

[研究委員会]

絵本研究に関する、ホームページ上での情報交換（・・・ニュースレター前号でお知らせした試行）にご参加ください。そのページに、絵本学会ホームページから行くことができます---「絵本学会研究委員会ホームページ」。(増成)



KATSUMI KOMAGATA